評伝

せなけいこさん

子どもの世界 絵本で寄り添う

23日に死去したせなけいこさんは、遅咲きの絵本作家だった。おばけが表紙の代表作「ねないこ　だれだ」など4冊の「いやだいやだの絵本」シリーズでデビューしたのは1969年。当時37歳、2児を育てる母でもあったせなさんは、貼り絵で独自の絵本表現を見いだし、子どもたちの心をくすぐる作品を世に送り出してきた。

1931年生まれ。美大進学を親に反対され、自立のため銀行に勤務していたせなさんは「絵を一生の仕事にしたい」と、19歳で童画家の武井武雄の弟子に。

貼り絵表現 唯一無二

自身のスタイルを模索する中、貼り絵に出合う。

長い下積みの間に結婚、出産を経験。にんじん嫌いだったせなさんが、息子には食べてほしいと思いを込めた「にんじん」など、デビュー作の原型となった手作り絵本は、育児と仕事の両立の中で生まれた。それが当時、福音館書店の編集者だった本多慶子さんの目に留まり、出版されると一躍人気の作家になった。

本多さんは、2019～21年開催の「『ねないこだれだ』誕生50周年記念　せなけいこ展」の展覧会図録の中で「しつけのための絵本とはまったく違っていた」と振り返った。「こうしなさい、と押しつけるのではなく、どうなると思う？　と問いかける。子ども自身に考える力を与える絵本だと思いました」

大人の目線ではなく、あくまでも子どもの世界観に寄り添った絵本を作り続けた。作品はこれからも世代を超え、読む人をドキドキ、ワクワクさせるだろう。

（共同通信記者　竹田健太郎）

乳幼児向け出版先駆け

児童文学に詳しい翻訳家のさくまゆみこさんの話　ひょうひょうとした人柄で、楽しく本をつくっている様子が伝わってきた。それが、子どもたちの、読んで楽しいという気持ちにつながったのではないか。今は乳幼児向けの絵本はたくさん出版されているが、それほど多くなかった1969年に「いやだいやだ」を出すなど、せなさんは先駆けてつくっていた。

せなけいこさんの主な作品

- 1969年「ねないこ　だれだ」など「いやだいやだの絵本」4冊シリーズ
- 72年「ルルちゃんのくつした」など「あーんあんの絵本」4冊シリーズ
- 75年「めがねうさぎ」
- 76年「おばけのてんぷら」
- 2009年「おばけなんてないさ」
- 16年「ねないこはわたし」

▲10月29日 福島民友新聞掲載

せなさんはどのような経緯で絵本作家になりましたか。

本多さんはせなさんの絵本についてどのように考えていますか。

せなさんにとって絵本とはどのようなものですか。

「ジュニア窓」にとうこうしよう　福島民友投稿のページ「窓」に送る